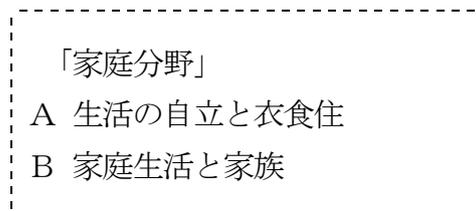


教科の内容はどのように改訂されたか。

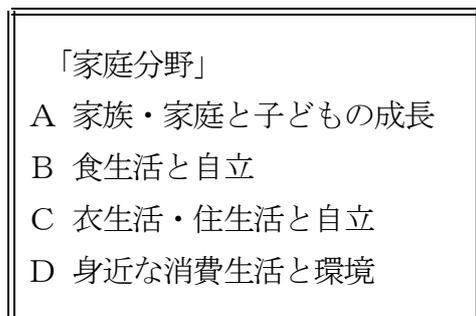
1 内容

内容構成を改め、次の4つの内容とした。

(旧)



(新)



- ・ 小学校の内容との体系化を図り、中学生としての自己の生活の自立を図る視点から内容を構成した。

2 履修方法の改善

- (1) 従来は必修項目と選択項目を設定していたが、今回の改訂では、各分野ともにAからDの4つの内容をすべての生徒に履修させることとした。ただし、「生活の課題と実践」に関する指導事項を設定し、複数の事項の中から1又は2事項を選択して履修させることとした。
- (2) 今回の改訂では、技術・家庭科の指導を体系的に行う視点から、小学校での学習を踏まえ中学校での3学年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容を設定し、第1学年の最初に履修させることとした。

3 社会の変化への対応

少子高齢化や食育の推進，持続可能な社会の構築など，社会の変化に対応する視点から改善を図った。

- 「A家族・家庭と子どもの成長」においては，少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し，幼児への理解を深め，子どもが育つ環境としての家族と家庭の役割に気付く幼児触れ合い体験などの活動を重視して改善を図った。
- 「B食生活と自立」においては，心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図る視点から，食生活の自立を目指し，中学生の栄養と献立，調理や地域の食文化などに関する学習活動を充実した。
- 「C衣生活・住生活と自立」においては，衣生活と住生活の内容を，人間を取り巻く身近な環境としてとらえる視点から，1つの指導内容として構成した。その際，布を用いた物の製作を設けるなど，衣生活や住生活などの生活を豊かにするための学習活動を重視して改善を図った。
- 「D身近な消費生活と環境」においては，社会において主体的に生きる消費者としての教育を充実する視点から，消費者としての自覚や環境に配慮した生活の工夫などにかかわる学習について，中学生の消費生活の変化を踏まえた実践的な学習活動を重視して改善を図った。